

令和6年度 みやぎの青少年意見募集事業

環境生活部共同参画社会推進課

目次

1. 事業概要

2. 青少年の意見といただいた意見の活用

1. 事業概要

【目的】

- ・ 地域で主体的に活躍できる人材を育成すること
- ・ 若い世代の意見を県政に反映させること

【テーマ】

- ① 若い世代の投票率向上に向けた取組について
- ② 「こどもまんなか」社会の実現に向けた取組について
- ③ 障害のある人もない人も共生する社会の実現について
- ④ 若い世代に対する「第48回全国育樹祭」の効果的な周知・参加促進について

【実施方法】（対象：県内の中学1年生～29歳の方）

- ・ アンケート ▶ 各テーマ5問程度の質問に答えてもらう。
- ・ 意見交換会 ▶ 参加者同士や担当課室職員との意見交換を行う。

1. 事業概要

アンケートの実施

形式：Webアンケート、紙のアンケート
期間：令和6年7月12日～9月16日

意見交換会の開催

形式：県庁にて対面形式、2グループ体制
日程：令和6年11月8日

意見の活用についての検討

各テーマ担当課室でいただいた意見の活用について検討し、政策の改善を目指す。

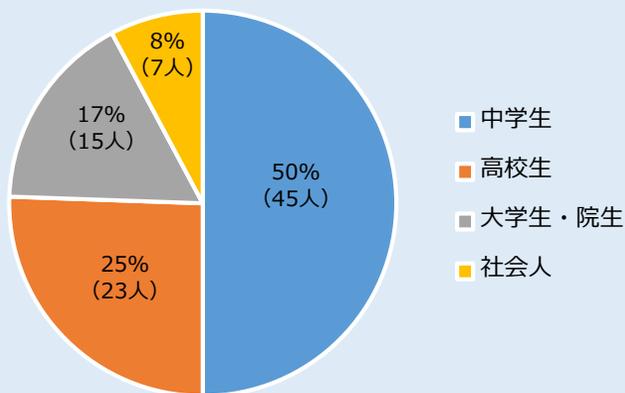
1. 事業概要

○アンケート

【回答数】 90人

(内訳：中学生45人、高校生23人、
大学生・院生15人、社会人7人)

参加者の内訳

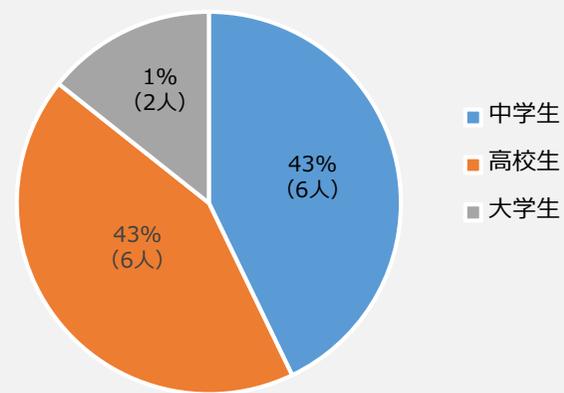


○意見交換会

【参加者】 14人

(内訳：中学生6人、高校生6人、大学生2人)

参加者の内訳



2. 青少年の意見といただいた意見の活用

- ① 若い世代の**投票率向上**に向けた取組について
担当：総務部市町村課
- ② 「**こどもまんなか**」**社会**の実現に向けた取組について
担当：保健福祉部子育て社会推進課
- ③ 障害のある人もない人も**共生する社会**の実現について
担当：保健福祉部障害福祉課
- ④ 若い世代に対する「**第48回全国育樹祭**」の効果的な周知・参加促進について
担当：水産林政部全国育樹祭推進室



いただいた意見を踏まえ、政策の改善を目指します！

各テーマの青少年の意見といただいた意見の活用については次ページ以降をご覧ください。

2. 青少年の意見といただいた意見の活用

① 若い世代の投票率向上に向けた取組について

青少年の意見

- ・学校の授業では客観的な情報を学ぶことが多く、**自ら選挙や政治を意識することが少ない。**
- ・**専門性のある講師による授業**が、選挙や政治について考えるきっかけになるのではないか。
- ・教育の現場で、**身近な問題について話し合う場を増やす**といい。
- ・投票所を固定せず、**比較的行きやすい場所で投票できる**といい。
- ・選挙に行くことや政治に参加することは若者にとって**ハードルが高い。**
- ・選挙や政治に関わる人の年齢層が高いため、若者は**不安を感じやすい。**
- ・**SNS**で選挙の周知をするといい。

いただいた意見の活用

(1) 選挙出前講座の内容充実

選挙や政治を「自分ごと」として考えてもらえるよう、**ゲストスピーカーの活用**や**身近な地域課題を考えるワークショップの実施**に取り組んでいきます。

(2) 市町村向け研修の内容充実

「**行きやすい場所への投票所の設置**」、「**子どもへの選挙啓発**」などを研修内容に盛り込み、県だけではなく、市区町村における投票環境の向上や選挙啓発を促していきます。

(3) 選挙啓発方法の工夫

令和7年度に行われる参議院議員通常選挙や知事選挙における選挙啓発をする際に、**SNSの有効活用**など若者の目線を意識した取組を行います。

2. 青少年の意見といただいた意見の活用

② 「こどもまんなか」社会の実現に向けた取組について

青少年の意見

- ・若い世代の意見を取り入れるためには、**手軽に意見を発信できるという点が重要。**
- ・タブレットに意見を発信できる機能が搭載されているといい。
- ・子どもたち同士の交流が少ない。公園などで遊ぶ機会が増えるといい。
- ・若い世代に情報を周知する際は、**簡単に把握できるようなチラシやパンフレット、絵本や短い漫画**を作るといい。

いただいた意見の活用

- (1) **パブリックコメントでの電子申請受付**
昨年12月に「こども計画」のパブリックコメントを実施した際に、**2次元コードからアクセスして電子申請ができる**ようにすることで、多くの意見を集めることができました。
- (2) 「こども計画」への反映
子どもたちが地域や異年齢集団の中で活動する機会が少ないという現状を踏まえ、**多様な体験**を通して、豊かな心や社会性を育むという視点を計画に盛り込みました。
- (3) 「こども計画」の周知方法の工夫
来年度、完成した「こども計画」を周知する際に、**当事者に届きやすい計画のPR方法**を検討します。

2. 青少年の意見といただいた意見の活用

③ 障害のある人もない人も共生する社会の実現について

青少年の意見

- ・行きやすく、行く機会が多いところでイベントを行うといい。
- ・家族や友達と一緒にチームで参加できるイベントだと参加しやすい。
- ・あまり堅苦しい感じだと自分が行ってもいいのかなと思ってしまう。
- ・イベントを周知する際は、県から家庭や学校へチラシを配ったり、SNSを活用したりするといいい。
- ・学習障害に対してあまり理解がない先生がいる。
- ・年齢層の高い人にも障害について理解してもらえるように、テレビで特集を組んだり、新聞や雑誌に掲載したりするといいい。

いただいた意見の活用

- (1) イベント内容の工夫
参加しやすさを重視したイベントを開催し、結果として障害理解を促進できるような企画を行います。
- (2) イベントの周知方法の工夫
SNSやチラシなど世代に合わせたメディアミックスを取り入れた広報手法を検討します。
- (3) ターゲットの検討
これまででは若年層をターゲットとしてきましたが、制度が分からなくても理念は自然と浸透していることに気付かされました。今後は親世代など中・高齢層をターゲットとした取組の必要性についても検討していきます。

2. 青少年の意見といただいた意見の活用

④ 若い世代に対する「第48回全国育樹祭」の効果的な周知・参加促進について

青少年の意見

・式典行事において、子どもたちに森の重要性などを教える企画や、東日本大震災の内容など、**宮城県ならではの課題に関連付けた教育的な企画**を行うといい。

・**学校と協力**することで、生徒にイベントについて調べてもらえる。また、家族や知り合いが式典行事に参加しやすくなる。

いただいた意見の活用

(1) 式典行事における震災の伝承

式典行事のおもてなしブースにおいて、**震災の教訓などを来場者に伝えることができるブース**を設置します。

(2) 式典行事への中高生の出演機会の創出

式典行事において、**地元中高生に式典補助員の協力や、アトラクションへの出演を**してもらうことで、生徒の方々と全国育樹祭の繋がりをづくり、全国育樹祭について知ってもらう機会とします。